



200年の伝統をITアシスト!

川出 和希

日本酒 エレクトロニクス

ご購入はこちら

第9回 田んぼの水位センシングの重要性



写真1 耕運機に乗って水を張った田んぼの代かきをしている



写真2 納入された苗パレットから苗をはずし田植え機にセットして使う



写真3 田植え機を使って苗を田んぼに植えている
この機械は4帖植え…1回の走行で4列の苗を植えることができる

今回は酒蔵を飛び出し、日本酒の原材料となる米を作る田んぼへ向かいたいと思います。筆者の蔵でも自ら醸造に使う「ひだほまれ」と呼ばれる酒米を少量ではありますが栽培しています。

昔は田んぼ作業と言えば重労働でしたが、昨今では機械化・省力化が進み、土日だけでも稲作ができるようになりました。

お米ができるまで

● 田起こしと代かき

春ごろに行う作業が田起こしと代かきです。冬の間

放置して固くなった土を、耕運機を使って耕し、柔らかくすることで田植えに適した状態にします(写真1)。また、肥料を混ぜて田んぼの栄養状態を改善し、雑草を取り除き、土を均一にらすという目的もあります。

● 田植え

準備ができれば田植えです。苗は農協から、トレーに植わった状態で納入されます(写真2)。この苗を田植え機にセットし、田んぼの中を駆け巡ります(写真3)。

最後に機械では植えられなかった場所(四隅や狭い場所)を手作業で修正します(写真4)。



写真4 機械で植えられないような狭い場所や四隅は手作業で



写真5 コンバインが反時計回りに田んぼを回り稲を刈り取る